



令和6年度決算のポイント

令和6年度の財政運営は、物価高騰対応に引き続き取り組むとともに、社会保障関係費や、施設・設備の維持管理・更新経費に対応しながら、子育て・教育、まちの拠点形成と経済の活性化、地域共生社会の実現、デジタル化に関する取組など、社会情勢にあった行政サービスを提供できるまちづくりの実現に最大限努力しました。

■一般会計の概要

決算収支の推移

(単位:百万円)

年度	R2	R3	R4	R5	R6
歳入	52,556	46,654	44,630	45,602	49,230
歳出	50,685	43,406	42,410	43,707	47,384
実質収支	1,811	3,180	1,974	1,643	1,536
単年度収支	333	1,369	△1,206	△331	△107

歳入…国庫支出金において、低所得世帯への給付事業や定額減税対応等による増収、地方特例交付金において定額減税減収補填特定交付金が交付されたことによる増収、市税や県税交付金、普通交付税、市債の増等により増収となりました。

歳出…基金への積立金や新型コロナウイルス感染症医療体制整備事業の縮小等により減少する一方、低所得世帯等に対する給付金給付事業や清掃センター基幹的設備改良事業、社会保障関係費の増等により、全体としては増加しました。

なお、前年度の実質収支を活用して、基金への積立、過年度償還金の支払い等を行ったことから単年度収支は、1億700万円の赤字となりました。

■特別会計の概要

全ての特別会計（公共施設整備基金、介護保険、国民健康保険、後期高齢者医療）で黒字あるいは収支均衡となりました。

■財政関係指標等

◇財政指標

- ・経常収支比率は、歳出において、給与改定による人件費や物価高騰等による物件費が増加したものの、歳入において、市税や県税交付金、普通交付税等の増で一般財源が増加したため、88.0%と2.2ポイントの改善となりました。
- ・実質公債費比率は、一般会計等の元利償還金の減少等により、単年度の比率が改善し、3年平均の数値においても1.9%から1.6%に改善しました。
- ・実質赤字比率は－%（△5.98%）、連結実質赤字比率は－%（△18.38%）、将来負担比率は－%（△132.3%）となりました。

◇積立基金・市債残高

- ・積立基金残高は130億1,200万円で、令和5年度の実質収支の一部等を基金に積み立てる一方、公共施設等総合管理基金をはじめ全体で10億9,600万円繰り入れたため、前年度から600万円減少しました。
- ・普通会計の地方債残高は132億5,500万円で、清掃センター基幹的設備改良事業において大きな借入があったなどの理由から前年度から1億4,100万円増加しました。